

# ガイダンス

## ～本講座の受講の際して～

講師： 十河茂幸(近未来コンクリート研究会)  
江良和徳(コンクリートメンテナンス協会専務理事)

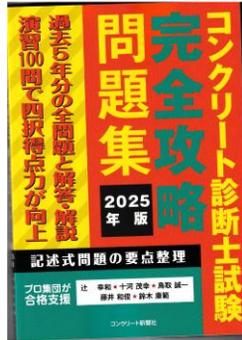
### 本講座を受けるに際して

- 使用図書と参考図書
- コンクリート診断士資格制度の発足の経緯
- この資格を取得した時のメリット
- 受験資格の概要
- 受験の仕組み(e-ラーニングと筆記試験)
- 合格するためのポイント

## 使用図書と参考図書について



使用図書



参考図書

## 資格制度設立の背景

- コンクリート構造物の経年劣化の実状  
建設後50年が経過したころから劣化が顕著に
- 21世紀は維持管理の時代
- 維持管理に関する知識を持つ技術者の必要性
- 2001年度に設立 2023年度までに18,036名合格  
2024年度4月現在の診断士登録者数14,857名

## 資格取得のメリット

- 維持管理に関わる業務の発注要件  
RC構造物の点検、診断、補修業務内容に必須
- 資格者の知識保有に対する信頼性の認識
- 信頼されるゆえに会社の資格手当が付与
- 転職に有利となる可能性
- コンクリート診断士会の入会要件

## 業務発注の資格要件(国土交通省)

表3-5 技術者資格等の区分(技術者資格登録簿に登録がない場合)

① 技術士 博士(研究業務等高度な技術検討や学術的知見を要する業務に適用)
② RCCM 地質調査技士(地質調査分野に適用) 土木学会認定技術者【特別上級、上級、1級】(土木関係分野に適用) コンクリート診断士(コンクリート構造物の維持・修繕に適用) 土木鋼構造診断士(鋼構造物の維持・修繕に適用)等

表3-5-1 技術者資格等の区分(技術者資格登録簿に登録がある場合)

① 技術士 博士(研究業務等高度な技術検討や学術的知見を要する業務に適用)
② 国土交通省登録技術者資格
③ 上記以外のもの(国土交通省登録技術者資格を除いて、発注者が指定するもの)

## 業務発注の資格要件(日本建築学会)

解説表 3.1 基本調査における調査・診断に推奨される資格

調査部位	資格
外壁(コンクリート打放し仕上げ)	一級建築士、建築仕上診断技術者 <sup>※1</sup> 、コンクリート診断士 <sup>※2</sup> 、 建築仕上げ改修施工管理技術者 <sup>※3</sup> 、特定建築物調査員 <sup>※4</sup>
上記以外の外壁、陸屋根	建築仕上診断技術者 <sup>※1</sup> 、建築仕上げ改修施工管理技術者 <sup>※3</sup>

[注] ※1:(公社) ロングライフビル推進協会、※2:(公社) 日本コンクリート工学会、  
※3:(一財) 建築保全センター、※4:(一財) 日本建築防災協会

解説表 4.1 詳細調査における調査・診断に推奨される資格

調査部材	資格
構造体	コンクリート診断士 <sup>※1</sup> 、建築仕上診断技術者 <sup>※2</sup> 、 建築仕上げ改修施工管理技術者 <sup>※3</sup>
外装仕上げ、シーリングジョイント、 メンブレン防水層	建築仕上診断技術者 <sup>※1</sup> 、建築仕上げ改修施工管理技術者 <sup>※3</sup>

[注] ※1:(公社) 日本コンクリート工学会、※2:(公社) ロングライフビル推進協会、  
※3:(一財) 建築保全センター

## コンクリート診断士受験資格

コンクリート診断士受験資格

資格または学歴	コンクリート技術関係業務(注1)の必要実務経験年数	コンクリート診断士講習eラーニング
A 1. コンクリート主任技士 2. コンクリート技士 3. 一級建築士 4. 技術士(建設部門) 5. 技術士(農業部門・農業土木または農業農村工学) 6. 土木学会認定(特別上級・上級・1級)土木技術者 7. 建設コンサルタンツ協会認定RCCM(鋼構造及びコンクリート) 8. プレストレストコンクリート工学会認定コンクリート構造診断士 9. 1級土木施工管理技士または1級建築施工管理技士	いずれかを登録していること  実務経歴の記入および勤務先の証明などは不要	・受講が必須講習受講終了証は2年間有効 ・2024年度の受講者は2025年度の受講は免除 ・2023年度以前の受講者は再度受講が必要
B 1. 大学 2. 高等専門学校(専攻科) 3. 短期大学 4. 高等専門学校 5. 高等学校	コンクリート技術に関する科目を履修した卒業生(注2)  コンクリート技術に関する科目を履修した卒業生(注2)  コンクリート技術に関する科目を履修した卒業生(注2)	4年以上(注3)  6年以上  8年以上

[注1] コンクリート技術関係業務:コンクリート建造物の診断(計画、調査・測定、予測、評価、判定及び補修・補強・更新対策)に関する業務及びそれらの管理、指導等に関する業務、コンクリート建造物の計画・設計・施工・維持管理・解体・更新、コンクリートの試験・調査研究・技術開発、レディミキストコンクリート及びコンクリート製品の製造等に関する業務をいう。

[注2] コンクリート技術に関する科目(コンクリート工学、土木材料学、建築材料学、建築構造学、セメント化学、解職材料工学、等)

[注3] 大学院でコンクリートに関する研究を行った人は、その期間を実務経験とみなすことができます。この場合、実務経歴書に大学院の学位論文の題名、期間の記入と、大学院の学位論文の題名が記載されている学位授与証明書または成績証明書等が必要です。

● 2025年5月1日現在、  
左記に該当の方

● 高いモラル・職業倫理を有し、コンクリートに関する知識を十分に持っていることが前提

## eラーニングの受講が必要

- 受講時間:基礎編約5時間、応用編約4時間
- 申込期日:2024年12月4日(金)~2025年2月5日(水)
- 受講料 :22,000円  
テキスト「コンクリート診断技術'25」代込み
- 受講申込み方法:詳細は、JCIのHP参照  
eメールアドレス登録⇒入金⇒受講申込み  
⇒受講票・テキスト到着⇒受講⇒修了書
- 受講期間:2025年4月4日(金)~2025年5月19日(月)
- 試験申込み方法:2025年3月にHPに掲載  
受験願書の購入は不要(電子化のため)

## コンクリート診断士の受験の概要

- 試験日:2025年7月27日(日)
- 試験地:札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、  
広島、高松、福岡、沖縄 9会場で開催
- 試験方法:筆記試験(択一式と記述式)
- 受験申込み:2025年4月(予定)
- 受験料:会員15,400円/一般16,170円(税込み)
- 合格通知:2025年9月(予定)  
(参考)合格後は登録して称号が与えられ、  
4年ごとに研修(継続教育)制度

## 選考基準 ～合格への道～

- コンクリート診断士として必要な知識と技術
  - ・変状の種類と原因 ・劣化のメカニズム
  - ・調査方法 ・劣化予測、評価および判定基準
  - ・対策の種類、補修・補強工法
  - ・建築物および土木構造物の診断の考え方
  - ・技術および基準類の変遷 など
- 試験方法  
四肢択一式問題 記述式問題（足切り有り）
- 選考基準  
合格率 約15% つまり難関です。

## 合格のために頑張りましょう！

- この講座の日だけを受けても合格できません。  
今年は絶対合格のために頑張りましょう！
- 択一式問題をたくさん解いて理解しましょう。
- 記述式問題を読み解いて解答してみましょう。
- 記述式は手書きで解答し、添削します。
- 添削は一度だけ受け付けます。
- 質問は随時メールで受け付けます。